

第 2 回東御市地球温暖化対策地域推進協議会議事要旨

H23.3.22(火) 15:00～17:00

勤労者会館 2 階大会議室

【出席者】

(委員:敬称略)

佐藤 哲、上條 浩明、清水 賢司、山口 吉久、関 正喜、高藤 圭一、関 幸枝、森 まり子

新田 詔三、中澤 亥三、萩原 猛、工藤 浩平

[欠席:宮原 則子、石川 昭隆、長谷川 岳大]

(事務局)

山浦市民生活部長、土屋市民課長、小菅生活環境係長、寺田生活環境係主査

【配布資料】

- ・東御市地球温暖化対策地域推進協議会会議次第
- ・東御市地球温暖化対策地域推進協議会委員名簿
- ・資料 1 CO₂ の推計地における市と国(簡易版)の算出比較
- ・資料 2 東御市地球温暖化対策地域推進計画進捗状況
- ・写真

【議 事】

１．開 会

２．会議事項

佐藤会長

震災の驚くべき傷跡を抱えている中、技術に対する過信でその恐怖を改めて身にしみて感じます。今後、国の原子力政策に大きな変化がありうるし、火力発電に頼ればむしろ温暖化対策に関しマイナスの影響が出る可能性もあります。一方、長期的に見た時に自然エネルギーの推進を避けて通れない事態にもなります。大きな災害の後遺症の形で温暖化に対する取り組みのあり用も大きく変わってくる可能性もあるのではないかと思います。被害に遭われた方々のご冥福をお祈りすると同時に、私たちはこれからどのような形でより時代に合った形での温暖化対策を進めていくことを真剣に考えなければならない状況にあります。そういったことを含めまして本日は、東御市の地球温暖化対策地域推進計画の進捗状況をご報告いただきまして、今後どのような形で進めていったらよいのかを皆様方からの様々なご意見お考えをお聞かせいただき、それを市の政策に反映していただく機会にしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

(1) 温室効果ガス排出量の推計方法について

佐藤会長

国の推計値がかなり大きく動いている状況ですので、それに対してどの様に対応していくかをご説明願います。

事務局説明

説明資料 「資料１ CO2 の推計地における市と国(簡易版)の算出比較」

昨年８月に環境省から地球温暖化対策地方公共団体実行計画の策定マニュアルの簡易版が出されました。このマニュアルは中核市・特例市よりも人口が少ない市町村が計画を策定するうえで参考とし、温室効果ガス排出量の推計方法も含まれています。市と国の簡易版では推計値の差が 10,000 トン～20,000 トン弱ぐらいあり、この違いは、市の推計方法がより細かく統計データを拾っているからです。昨年、市は独自に排出量を推計したわけですが、環境省から統一的なマニュアルが出されたこともあり、今後はこの方法で排出量の把握をしていくことをお認めいただきたいと思います。

佐藤会長

推計の仕方については東御市独自の方法で行い、かなり細かくより正確な値であろうかと思います。今回、国から全国の統一的な計算手法が出たということで、その手法に照らして計算することの利点は、おそらく他の市町村との比較が容易になる、統一的な基準で比較ができることにあると思います。今後の排出量の計算の根拠については、この新しい環境省か

ら出てきた基準を使って計算していこうかというご提案でよろしいですか。

そこで大きな問題になるのは、基準年の計算をどうするかということがあります。基準年の計算を改めると、計画自体のパーセンテージ、具体的に何トン削減するかの数値が変わってきます。そのあたりの説明をいただけますか。

事務局

昨年計算した数値は間違っておりませんので、この数値を目標値として推進していきたいと考えています。2008 年以降は、統計調査が終わってしまっているものがあつたりするので、県内では長野市、松本市以外は多分このマニュアルを使って数値化してきますので、先程会長がおっしゃったように各市町村との比較をするにはこのマニュアルを使っていきたいというものでございます。計画の数値を入れ替えないで生かして目標等を推進していきたいということをご理解いただければと思います。

佐藤会長

補足しますと、各部門でどれだけ温暖化対策をしてどれだけ減らすという数字は変えない。元の基準年が 2 万トン減りますので削減率は大きく減らされます。当初目指していた削減率よりさらに大きな削減を目指すということで間違いないですね。元の母数の 25 万トンをベースにして、そこからどれだけ減らしていった結果として何%減りますという計算をしていたわけですが、元の母数は小さくなりますので、しかもこれから計算方法はより小さな計算方法をとりますので、より大きな削減が目に見えてくる形になります。これ幸い、より削減量が大きく見える計算方法を採用したということではなく、絶対量での削減値は変えないということを明確にいただければよいと思います。

中澤委員

計算方法を変えれば当然絶対量も変わってくるのではないのでしょうか。254,941 トンの 13%を削減するわけですか。実際は 25 万が 23 万になっているわけですから、同じ 13%削減ということであればもっと少なくなるわけですが、高いほうでやろうということですね。

佐藤会長

個々の施策で何%何トン削減するかという数字は変えないでいいじゃない。もともと 25 万トンで計算して 13%を上回る推計をしているわけですから、23 万トンとなると 13%以上削減することになります。逆にいえば 13%という目標の達成はし易くなってしまうますが、し易くなってしまうところで満足していただいては困るというのが私の発想で、元の目標値をしっかりと目標としてキープしていただければいいのではないかと思います。

事務局

計画書の 46 ページの表をご覧くださいますと、2005 年は 25 万トンが基準年で示してあります。これが簡易版ですと 23 万 4 千トンになるわけですが、会長がおっしゃるこの 13%を減らすというのは、いわゆる将来推計の対策ケース 22 万トンに対して、ベースが 23 万 4 千トンであれば 13%の削減でなくてもクリアしてしまう形になります。この計画をたてた時に基準年 25 万トンをベースに 22 万トンまで下げるという 13%削減という目標は変えないで下

げていきたいということです。

佐藤会長

正確に言うなら下げ幅を変えないということです。

くれぐれもよろしくお願ひしたいのですが、よって多めに削減できたというふりをしないということだけ、基準年の計算方法が変わって排出量が小さく見えているのだけれど東御市としては、元の 25 万トンに対する 13%に相当する量を必ず削減しようと努力することを明瞭にさせていただくことをお願いします。

山口委員

国の簡易版は変更する場合はあるのでしょうか。

事務局

改訂版が出るかどうかまではわかりませんが、ここには第 1 版と出ているのでこれから第 2 版 3 版と出ていく可能性はあると思います。

佐藤会長

改訂版は必ず出ると思います。計算方法が一定ということは普通ありません。必ず変わってきます。非常に重要な原則として、基準年が小さく見積もられた場合でも、削減の努力は怠らないことを今後も貫いていただければいいのではないかと思います。ただ、逆が起こった時が心配です。25 万トンよりも推計値が大きくなってしまった場合が心配で、またその時考えるということではよろしいのではないかと思います。

部門ごとの積み上げの数値はいじる必要がないというのが事務局のお考えで、そこは間違っていないと思いますし、絶対量の削減すべき数値は変わらないということになります。

工藤委員

国の推計方法の数値と市の推計値の 2 通りの数値が外に出してしまう気がしますがそういうことはないでしょうか。

事務局

資料 1 を見ますと 2008 年が直近の数値ですが、毎年こういった形（簡易版使用）で公表していきたいと考えております。これとは別で、1 年間の市の施策による削減量を示したものを出します。いずれ何年後に国の施策、市の施策を合わせたものを出して追っていききたいと考えています。

佐藤会長

統計的なデータが出てくるのは 2 年遅れるわけです。今年どれだけ私たちの対策が進んだかは、これでは測れないです。私たちが市の対策による数値をチェックするのは、実はこれではなくて、個々の項目で年度ごとにどれだけ進んだかということになります。

この件につきましては、いくつか留意点をご指摘させていただきましたので、その点にくれぐれもご注意いただいて進展させていただければと思います。

次の議題に移らせていただきます。これが一番重要なポイントと思われませんが、東御市の

計画がどこまで進んだか、具体的に各項目についての説明をいただき議論をよろしくお願いしたいと思います。

(2) 東御市地球温暖化対策地域推進計画の進捗状況について

事務局説明

説明資料 「資料2 東御市地球温暖化対策地域推進計画進捗状況」
「写真」

資料中の対策・施策の削減量は1年間のもので、太陽光発電の削減量等は設置時期により変わりますが、年度当初に設置されたものとして計算しておりますことをご理解願います。

再生可能エネルギーの導入について説明

中澤委員

メガソーラーで飯田の場合はどれだけお金を出しているかご存じでしょうか。また、バイオディーゼル化を可能にするには、廃油が何トン必要になりますか。

事務局

飯田市は用地提供と今後の啓発に対するPRを行っており、基本的には中部電力が事業者として全て設置しているかと思います。バイオ燃料の可能とする量は、担当のクリーンリサイクル係によると5,000リットルぐらいなら可能ではないかと申ししていますが、正確なところは何ともいえません。

上條委員

間違いありません。新たな建設計画はありません。

事務局

議員からの質問のなかでは、バイオディーゼル化にすれば市民へのアピールにもなり天ぷら油がより多く集まるのではないかと、例えばこのごみ収集車は皆様から集められた天ぷら油で走っていますとすれば大変よいことだと思います。

一点問題があり、燃料が不安定なせいかエンジンを焼き付けてしまう恐れがあり、技術的にも様子をもう少し見たいというところです。また、収集が市の車でないことからなかなかふみきれないところがあり、もう少し様子を見たいと思おう。

工藤委員

食用廃油の集め方は、現在、市の主な施設に缶を設置して集めていますが、各地区のごみ集積場に置いてごみを集める時に一緒に廃油を集めれば、各家庭は出しやすいと思うがいかがでしょうか。

事務局

現在、地区公民館には回収場所を設けていますし、市役所等の主な公共施設にも設置されています。来年度から回収場所を増設する検討をしております。

工藤委員

予算確保については各課で行うかそれとも皆さんが立ち会うのでしょうか。

事務局

庁内の推進委員会で予算要求の前に委員会を開き、計画に基づいた予算要求を各課で行って欲しいことは話し合っています。ただ、実施計画や予算査定に私どもが同席はできませんので各課にお願いしています。

市民課が担当するところは積極的に進めていますが、庁内でも温度差があります。特別重点事業として位置づけ取り組んでいます、それぞれの課が一番大事なことで進めていかなければならないと思います。

佐藤会長

まさに庁内の推進会議がいかに機能するかがポイントだと思います。まずは市民課の中で様々な対策が取られ、それがお手本となって他の課が動くというプロセスになると考えます。始まって1年目ですのでできることから先に進めるという作業が一番大事かと思います。私のほうから2点ございます。

住宅用太陽光発電システムの導入については一番期待できる施策と思われるので、積極的により効果的に推進を図っていただきたいと思います。事業所の太陽光発電システムの導入助成に関しまして、6月の補正予算で対応とのことですが、実現した段階で皆様にご報告をいただければと思います。この2点に関しては大変結構な取り組みであったと思っていますし強く進めていただきたいと思います。

事務局 事業者・市民の活動促進について説明

佐藤会長

ここは数字が出にくいところであり、いかに市民のなかに温暖化対策に対する意識が浸透していくかどうかという視点からご検討いただければありがたいです。

中澤委員

LEDの削減量はどれくらいでしょうか。エコアクション21の推進を考えてみてはいかがでしょうか。改正省エネ法で削減されていると思いますので、横棒ではなくて排出量を書いていただければと思います。

事務局

中央公園のLEDは新たに追加されたものなので、排出量の削減には繋がらず記入できませんでした。エコアクション21については前回会議でもご提案されておりますが、市の補助制度ではISOのみが対象となっておりますので、条例の検討も必要と考えます。改正省エネ法による取り組みですが、二酸化炭素が増える場合どのように記入したらよいかわかりませんでした。

佐藤会長

事業の規模が拡大するに伴ってどうしても増加してしまう分はきちんと相殺して減らしていくことが目標です。要するに絶対量で減らすというのが目標ですが、増えた部分については差し引いて考えるという作業を真剣にやらなければいけないと考えます。増えた量は削減量からさっぴくという作業を私は期待します。

工藤委員

1月25日の信濃毎日新聞に佐久市がLEDを9600件設置と載っていました。私の区では21基の防犯灯がありLEDにした場合、設置費はかさみますがガスは減ると思われます。

事務局

佐久市と小諸市はLEDへの更新として大きな予算で今年度と来年度進める計画でおります。隣の上田市も自治会への補助で取り組んでいます。東御市も新年度からLEDの補助をつくりました。現在、LEDは進んでいる段階でまだ価格的に下がる可能性がありますので、更新することに関し補助することにさせていただきました。

防犯上の安全安心なまちづくり、CO2削減、電気代の削減という3つの効果で市も推進していきたいと思います。

佐藤会長

CO2の削減をすることは、他でも様々な市民生活の改善に繋がることになります。そういうところからきちんと手をつけていくことは、市民の意識の向上という点でも大きな効果がありますし、市にとってもとりやすい施策になると思います。

森委員

学校給食での地元産の利用について2011年以降の目標数値を出して欲しい。

佐藤会長

どこまでいけるのかを検討なさったうえで目標値を是非掲げていただきたいと思います。

新田委員

エコアクションの審査をやっている関係で推進する立場であります。東御市もできればエコアクションに変えていただければいいと思いますが、是非広めていただきたい。ある市は環境家計簿を浸透させてみんなが作っているところもあります。東御市も柱のようなものを立ててお願いしたい。

事務局

ISOにつきましては、自治体のなかでも自己適合するところが増えていきますので、これに代わるエコアクションを検討する必要があると考えます。環境家計簿については市も配るだけでなく講習会等を設けるなど考えていきたい。

佐藤会長

市民の活動として市民みんながやるという柱を考えることは大切であり、是非検討いただきたいと考えますし、先程、森さんがおっしゃった地産地消もその一つではないかと思われます。

関委員

市役所内が熱いので震災があったばかりだし、窓口に申しましたがエネルギーの使用に気をつけていただきたい。

事務局

まずはしっかり受け止めたいと思います。震災直後は午後の2時や3時まで暖房をつけないこともありましたが、この庁舎は古いため入るか切るかしかできず、温度調整が一際できません。熱い階もあれば寒い階もあり、結論的には無駄じゃないのかというご意見をいただいているのは事実で、このことはしっかり受け止め気をつけていきたいと考えます。

森委員

中央公民館の調理室の給湯について、CO2削減効果も考えてガスがいいのかIHがいいのかをよく検討いただきたい。

佐藤会長

サマータイムやフレックスタイムの導入に関して、市民に対しての普及効果を是非検討していただきたい。

事務局 地域環境の整備、循環型社会の構築について説明

佐藤会長

全体の数値についても説明願います。

全体の目標と照らし合わせてどのようになりますでしょうか。

2012年度までに市の施策として実質何トン減少という目標があると思います。

事務局

計画 P69 に 2012 年までのケース別の目標値が載っております。小ケースでは 3,930 トンとあり単年ごとの目標値までは載っておりません。

佐藤会長

3年後の目標値に対し今年の進捗状況はどのように見るかということです。計画推進にあたりこれだけのことをやりましたという報告だけでは困るのであって、どのような進捗状況なのか、どのような問題があるのか、どのような解決策を検討すべきなのかといった分析を事務局に提示していただきたいということです。本日の時点では間に合いませんが、是非私どもに回していただきたいと思います。

けっして悪い数字ではないなと思って見ておりますが、小ケースの中ではちゃんとやっている段階だと思いますし、さらにその先、中・大ケースへ向かっての基盤づくりが実は非常に重要なポイントになってくるのではないかと思いますので、その辺の分析もお願いしたいと思います。

荻原委員

生ごみの減量化はその後どうなっているかをバイオディーゼルとも関連させてお聞きしたい。

事務局

昨年、生ごみリサイクル研究会が 27 名で組織され、家庭で簡単にできるリサイクルの方法を研究して普及を図ろうと、6 回ほど開催し 120 人が講習を受けております。それと並行しまして、市全体の生ごみのリサイクルシステムの構築も研究しています。

佐藤会長

生ごみの減量化は日々の生活においてできることでございますから、是非うまいやり方を市の方で考えていただければと思います。

山口委員

長野県で食べ残しを減らそう県民運動をやっており、その中で信州エコクッキングをやっております。せっかく宮原先生がいらっしゃるのでも東御市も取り入れられたらと思いました。業務用区分で協力店を募集しており、県内では 150 店ほどあり東御市もタイアップしていただければと思います。

中澤委員

間伐してまた燃やせば炭酸ガスになってしまいますが、実際、間伐したものはどういうふうになっているのでしょうか。

事務局

間伐をすることによって CO2 の吸収量が増えるということではなくて、間伐をして手入れをすることによって初めて CO2 を吸収する森や林にみなされます。間伐材を何かするのではなく、適正な手入れをするということでございます。

佐藤会長

材の中に含まれる炭素ではなくて、間伐をすることによって森の木の成長が促進される。その促進量を推定したのがこの数値だという理解で間違いありません。

上條委員

間伐には切った木材を残してくるやり方と搬出して利用する場合があります。望ましいのは搬出して木材として利用することです。東信地域はカラマツが主体でカラマツは杭丸太としての需要が多く、搬出さえできれば捨てる場所がほとんど無いので、集約化していかにコストを下げるかということを民有林の中でも取り組まれています。

佐藤会長

計画のなかに薪ストーブの推進がなかったので、寒冷地ですし間伐材も出ますことから是非検討していただきたいと思います。

山口委員

とうみエコライフ DAY の実践のところで非常に大きな数値になっており、参加者 5,532 人は新規の人であればいいと思うのですが、毎年であればダブルカウントになっていくのではないかとと思われるので、その辺を精査された方がよいと思います。

佐藤会長

増分で再計算してみただくというのが良いと思います。この部分が大きなウェイトを

占めますので過大評価するのではなくむしろ過小評価ぎみにしていただいたほうが良いので再検討願います。

計画に沿った形でのご報告をお願いしたいので削減量の右側にもう一列つくっていただいて、2012年度までに小中大の取り組みに関して何トン減る予定であるかを並べていただいて、比較できるようにしていただけると、どれが遅れていて進んでいるかが直感的によくわかりますので、資料を改訂してお配りいただきたい。それと合わせて修正した数値に基づいて現状分析を是非お願いしたいと思います。おそらく次回の協議会は来年度半ばになるということですので、来年度市が具体的にどのような施策を検討しているかを私たちは来年度の半ばを過ぎるまで知ることができないということになってしまいます。それには来年度の初めに、市が進めようとしていることを前段の分析を加えた形でもう一度お示しいただければ大変ありがたいと思います。そういった資料をいただいた中からもし何かご提案することがありましたら、改めてメールなどの手段でフィードバックを差し上げるというやり方にさせていただければと思いますがいかがでございましょうか。よろしくお願いいたします。

その他、もしなければこれで本日は閉会させていただきます。

事務局

その他ということで事務局の人事異動について申し上げます。

本日話し合われたことを後任者にしっかりと伝えて参ります。

次回の協議会は年度半ばではなく年度当初を考えます。

委員の皆様からもこの思いというものを後任者にしっかりと植え込んでいただきたいことを申し上げるとともに長いことお世話になったことをお礼申し上げごあいさついたします。